

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区高輪 1-5-38
園名	ミアヘルサ保育園ゆらりん高輪

1 活動のテーマ

<テーマ>

感情

<テーマの設定理由>

5歳児が入園してきた際、コロナウィルス感染症の発症・流行によりマスクの着用が必要となり、表情や感情を汲み取ることが難しく、他児との距離も制限され、幼少期に築かれるべきはずであった他者との関わり、コミュニケーションの不足に繋がっているのではないかと感じた。この活動を通して、自分の感情と向き合い、感情を整理する方法を見つける手がかりになるのではないかと感じた。特に喜怒哀楽に着目し、自分の感情の表現の仕方を様々な体験を通じて身に付けていけたらと思う。活動を重ねることで幼児クラス、特に5歳児の子どもたちがポジティブで前向きな思考や発言の探索につながるのではないかと考える。

2 活動スケジュール

7月10日 感情とは何かについて知る。
7月11日 感情とは何かについて知る。
8月6日 「喜び」について知る。
8月8日 「喜び」について知る。
9月12日 「怒り」について知る。
10月3日 「哀しみ」について知る。
11月28日 色で自分の感情を表現してみよう。
12月4日 自分自身の感情を表現したTシャツ作りをする。
12月24日 政策したTシャツを着て自己表現を楽しむ。

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・紙粘土・粘土板・絵の具・バケツ・筆・作品の名札・鉛筆

4 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・「喜び」「楽しみ」について知る。
- ・自分の好きな物、人を紙粘土で表現してみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

朝から「今日すくわくでしょ？」と楽しみにしている姿が見られた。すくわくは「楽しい活動」というイメージが子どもたちの中でできている様子であった。

喜び、楽しみについての簡単な座学をした。「みんなが喜びを感じる時はどんな時？」に対して様々な意見が出た。

活動中に「何色を塗ったらいいかわからない」「見本がないと作れない」と戸惑う姿が見られるのではないかと予想していたが、黙々と夢中になって作っていた。好きなもの、人のことはよく覚えていることに驚いた。

中には作りながら自分の好きってなんだろう？と考えて答えを追求している児も中にはいた。

作った後に「好きな物を考えて作っている時間はどうだった？怒りの気持ちは出てきた？」に感想を聞くと「いや、喜びと楽しいが多かった！」「集中できて楽しかった！」と子どもたち自身も好きなことを考えている時は負の感情が出てこないことに気がついていたことができたのが今回の収穫であった。

5 振り返り



<振り返りによって得た先生の気づき>

自分にとっての「好きなもの・こと」「嬉しいもの・こと」をしっかりと理解している様子であった。

何かを作って自分の気持ちを表現することの楽しさを味わっていた。

座学は子どもによっては理解度が異なっていた。次回は自分で考えて発言できるような環境、場を設けていきたい。

次回は怒りを鎮める方法を知るという活動の中で、一人ひとりの性格の違いに気付けるように活動内容を考えていきたい。

好きな物や人を考えている時間は子どもたちにとって「楽しい時間」「集中するくらい夢中になれる時間」という考えがあることに気付くことができたのではないかと思う。